



田上 綾香 (たがみ あやか)

地質情報研究部門 地球物理研究グループ

地質情報研究部門地球物理研究グループの田上です。2024年9月に東北大学大学院理学研究科にて博士(理学)、ニュージーランドのヴィクトリア大学ウェリントンにて Jointly Supervised Degree を修めました。2024年10月から北海道大学で非常勤研究員として勤務し、今年度4月から産総研に入所しました。学部時代は構造地質学、修士以降は地震学を学びました。主に浅いプレート内地震を対象とし、断層活動と応力場の関係について研究を行いました。さらに東北日本とニュージーランド南島の断層活動の傾向の比較を行いました。今後は業務を通して産総研で新しい技術を学び、身につけ、地震活動への理解を深めたいと考えます。



牛丸 健太郎 (うしまる けんたろう)

地質情報研究部門 地殻岩石研究グループ

地質情報研究部門地殻岩石研究グループに配属となりました。牛丸健太郎です。2024年3月に京都大学大学院理学研究科の地質学鉱物学教室にて博士を取得したのち、産総研で1年間の学振PDを経て今年度から常勤職員となりました。

私はこれまで、九州西部の天草諸島の地質、特に構造発達史について研究してきました。野外で地質を見ることが純粹に好きです。学生時代は両親、先生方、先輩方、事務の方々をはじめ沢山の方にお世話になりました。今後とも暖かく見守っていただけますと幸いです。産総研では主に5万分の1地質図幅の作成に携わります。次の研究の踏み台・出発点になれる良い成果を生み出していきたいと思ひます。



山田 来樹 (やまだ らいき)

地質情報研究部門 層序構造地質研究グループ

地質情報研究部門層序構造地質研究グループに配属されました。山田来樹と申します。2023年に新潟大学大学院自然科学研究科にて博士を取得しました。同大学で技術補佐員として勤務した後、日本原子力研究開発機構で高レベル放射性廃棄物の地層処分に関する研究を行ってきました。

私の専門は火成岩岩石学で、特に日本海が大陸から引き離された時期(2000~1500万年前)の火山岩を中心にマグマに関する研究を行ってきました。この自身の専門性を活かして、産総研では陸域地質図の整備を進めていきたいと考えています。所内では様々な方と交流することで、知見を広げ業務に活かせるよう努めて参ります。これからどうぞよろしくお願いいたします。





小野 誠太郎 (おの せいたろう)

地質情報研究部門 資源テクトニクス研究グループ

地質情報研究部門資源テクトニクス研究グループの小野誠太郎と申します。今年3月に東京大学大学院理学系研究科にて修士号を取得したのち、4月より修士卒研究職として産総研に入所いたしました。大学では海底地形、地磁気、重力などの地球物理データを用いて背弧拡大プロセスに関する研究を行ってまいりました。産総研では海域地質図プロジェクトや鉱物資源プロジェクトに携わる予定です。出身が兵庫県明石市で、子供の頃から海に慣れ親しんできたこともあり、こうして海に関わる業務に就けたことを大変嬉しく思っております。これまでに培った地球物理の知見を活かして業務に真摯に取り組んでまいります。皆様どうぞよろしくお願いいたします。



鈴木 健士 (すずき たけし)

再生可能エネルギー研究センター 地熱研究チーム

再生可能エネルギー研究センター地熱研究チームの鈴木健士です。京都大学大学院理学研究科地球惑星科学専攻にて博士号を取得後、京都大学地球熱学研究施設（別府）でのポスドク勤務を経て、4月より産総研に着任しました。

専門は地球内部電磁気学です。これまで、物理探査により推定される地中の比抵抗（電気の流れにくさ）分布を正確に解釈することを目指し、地中を構成する岩石の電気物性を実験と数値シミュレーションの両面から研究してきました。

今後はこれまで培った技術を活かし、地熱貯留層の性状理解に向けた研究に取り組めます。そのために、領域を越えた全所的な連携・協力も積極的に進めていければと考えております。皆様どうぞよろしくお願いいたします。



中山 宏之 (なかやま ひろゆき)

再生可能エネルギー研究センター 地中熱研究チーム

本年度より再生可能エネルギー研究センター地中熱研究チームに配属されました中山宏之と申します。これまで民間企業で地質・地下水調査等を行ってきた傍ら、2025年3月に信州大学で学位を取得し、4月より産総研に入所しました。

修士では地中熱研究、博士では国際協力機構（以下、JICA）の業務で得られたデータを活用した地下水資源開発に関する研究を行いました。この研究成果をJICAやカウンターパートへフィードバックしたことで、社会実装を試みました。

現在、地中熱研究チームは社会実装フェーズに入っており、これまでの私の技術や経験を活かして社会実装に貢献していく所存です。皆様、今後ともよろしくお願いいたします。





TUM SEREYROITH (とうむ せれいろうとつ)

ネイチャーポジティブ技術実装研究センター
生態影響・対策技術評価研究チーム

4月1日付でネイチャーポジティブ技術実装研究センター（主務）及び地圏資源環境研究部門地圏サステナビリティ評価研究グループ（兼務）に研究員として着任いたしました Sereyroith TUM（トゥム セレイロワット）と申します。カンボジアの Institute of Technology of Cambodia で地資源・地盤工学を学んだ後、ドイツのドレスデン工科大学にて水資源工学の修士課程を修了し、2022年に北海道大学環境循環システム専攻で工学の博士号を取得しました。その後は産総研にて特別研究員として研究に従事してきました。今後は、ネイチャーポジティブ技術実装研究センターにおいて、自然資本を活用した環境修復技術や資源管理技術の研究開発に取り組む予定です。



橋本 優里 (はしもと ゆうり)

ネイチャーポジティブ技術実装研究センター
自然資本DB構築・価値解析研究チーム

本年度4月より修士卒研究職としてネイチャーポジティブ技術実装研究センター（主務）及び地圏資源環境研究部門地圏環境リスク研究グループ（兼務）に配属されました、橋本優里です。生物—環境の相互作用や環境問題に関心があり、修士までは東北大学の地学専攻で海洋に生息するプランクトン（浮遊性有孔虫）の環境変化に対する応答について研究してきました。産総研では、人間活動の影響を強く受ける陸域土壌の微生物叢について、環境DNA解析を用いて多様性や構造、機能性を明らかにし、環境評価基準や環境負荷を低減する技術の開発・実装を目指したいと考えています。何卒よろしくお願い申し上げます。

